

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2022年  
3月1日  
第129号

## サンシュユ（ミズキ科）

園内、果樹エリアと温室の裏で黄色の蕾がもうすぐ春がくるよと教えてくれています。中国、朝鮮原産の落葉小高木で、日本には享保7年

（1722年）に薬用として朝鮮から導入され、小石川の御薬園で栽培が始まった記録が残されています。偽果は長楕円形で、10月～11月に赤く熟し、12～1月まで樹に残っています。甘味がありますが、酸味、渋味も強く、1個の大きな種子があるので、生食には向きません。偽果から種子を除いた果肉が、生薬の山茱萸（サンシュユ）となり、中医学では滋陰薬に分類され、補益肝腎を目的に八味地黄丸、六味丸などの漢方薬に配合されます。また、生の偽果をホワイトリカーに漬けて、疲労回復、滋養強壮を目的とした薬酒として飲用したりします。

## ウメ（バラ科）

園内、第一圃場両脇で、ウメの花が見頃です。中国原産の落葉小高木で、弥生時代に朝鮮を介して日本へ渡来したという説や、奈良時代に遣唐使が日本へ持ち帰ったという説もあります。当時は一重の白梅のようでした。ウメの未熟で自然に落ちた果実を籠に集め、藁を燃やした煙をあてて燻製し、あるいは蒸してから、乾燥したものが、生薬の烏梅（ウバイ）です。中医学では固渋薬に分類され、鎮咳や駆虫を目的に杏蘇散や椒梅湯などの漢方薬に配合されます。ウメの学名 *Prunus mume* の種小名は、シーボルトが当時の日本人が呼んでいた名称を付けたものです。梅は万葉集にも多く登場しますよね。